

世界一の観光大国・フランスに学ぶ

日仏観光交流の強化に向けて

フランスは、世界で最も多く外国人旅行者を受け入れている観光大国として知られている。日本が国家戦略として「観光立国」の実現を目指すうえで、フランスから学ぶことは多い。昨年十二月に駐日フランス大使として着任したクリスチャン・マセ氏に、日本の観光振興のためのヒント、日仏観光交流の強化に向けた取り組みについて伺った。

副会長／観光委員長
東日本旅客鉄道相談役
大塚陸毅
おおつか むつたけ



の皆さんからさまざまな支援をいただきました。特に、サルコジ大統領(当時)の訪日、緊急支援チームの派遣など、物心両面での支援に対し、心からお礼申しあげます。また、マセ大使におかれても、赴任してすぐ、被災地を中心に日本各地を視察され、励ましの言葉をいただいたと伺っています。マセ 三・一一以降のフランスの取り組みに対して、温かいお言葉をいただき、感謝いたします。しかし、両国の一五〇年にわたる友好の歴史を考えれば、当然のことをしたままだと思っています。フランスと日本には、たくさんの共通点があり

三・一一以降にフランスから受けた支援

大塚 昨年の東日本大震災の際は、フランス

国を実現するためのヒント、日仏観光交流拡大に向けた取り組みについて、お考えをお伺いしたいと思います。

これまで日本は、産業としての観光に、あまり力を入れてきませんでした。これは、第二次大戦後、復興のために加工貿易中心の産業政策をとってきたからです。また、勤勉な国民性から、「観光＝遊び・ムダ」というイメージを持っていたため、観光をビジネス・産業としてとらえる視点が欠けていたこともあると思います。

しかし、近年、産業としての重要性はもろろん、国同士の交流、外交面での重要性といった観点からも、観光に対する政府や国民の認識が高まっています。具体的には、小泉内閣時代の二〇〇三年、日本は観光立国を初め



て政府の方針として掲げ、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を開始しました。翌年、経団連においても観光委員会が設置されました。さらに、二〇〇七年には「観光立国推進基本法」を施行し、現在は、国家戦略として観光立国の実現に取り組んでいます。

しかしながら、二〇一〇年の時点で、日本を訪れる外国人旅行者数は約八六一万人で、世界第一位のフランスの九分の一、世界で第三〇位、アジアで八位と、大きく出遅れています。加えて、昨年は、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の影響により、訪日外国人旅行者数は約六二二万人と大きく落ち込んでしまいました。

こうしたなか、政府は、今年三月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」において、訪日外国人観光客を二〇一六年までに一八〇〇万人に伸ばすという高い目標を掲げました。目標を達成するためには、さまざまな課題があると考えています。

そこで、マセ大使にお尋ねしたいと思います。フランスは世界中から多くの観光客を引きつけていますが、大使はフランスの魅力について、どのようにとらえていますか。

ます。例えば、文化、歴史、生活様式を重要視している点、美意識の高さ、完成されたものに対するこだわり、人をもてなす精神などです。長年の友好関係のなかで、お互いを思いやる気持ち、好意が育まれてきました。ですから、どちらかの国に困難な出来事があったときに、自然に手を差しのべる流れができている。三・一一以降フランスが日本に対して行ってきたことが、両国の絆をより深めたことになれば、大変うれしく思います。

フランスの魅力と観光振興に向けた取り組み

大塚 本日は、世界一の観光大国であるフランスからいらしたマセ大使に、日本が観光立

マセ フランスにとって重要な産業である観光についてお尋ねいただいたことを、大変うれしく思います。フランス観光を数字で振り返ってみると、海外からの旅行者数は八一四〇万人で世界第一位、観光収入がフランスのGDPに占める割合は七%、観光関連企業は二三十社にも上ります。

七月八日に、ローラン・ファビウス外相が来日しましたが、アジア歴訪の最初の国として日本を選んでいきます。私は、ファビウス外相と空港から都心へ向かう車の中で、今後の日仏間の重要課題について話し合いました。その際、外相は観光を課題の一つとしてあげました。ファビウス外相は、野田総理、玄葉外相との会談において、観光について言及し、産業面だけでなく、両国民の交流を促進するうえで観光が果たす役割は大きいという考えを述べています。

ご指摘のとおり、フランスは、世界で最も多くの外国人旅行者を受け入れています。フランスにはたくさんの魅力があるということ、同時にその魅力を引き出す努力をしているということが、この結果を生んでいるのだと思います。

では、フランスの魅力とは何かを考えてみると、日本とも多くの共通点があるように思えてなりません。



3月16日から19日まで開催された「パリ書籍見本市」
2012年は東日本大震災に見舞われた日本を特別招待国とし、日本から
22人の作家らが招待され、現代文学や漫画の紹介が行われた
©フランス外務省/Frédéric de La Mure

とを目的にプロモーションを行う国家レベルの唯一の機関であり、国内旅行者の登録管理や、ホテルの質を保つための格付け制度にもかかわっています。

日本の観光振興のために必要なこと

大塚 私の個人的な経験を申しあげますと、フランスを訪れる前から、アラン・ドロンやジャン・ギャバンの映画を見たり、学生時代

フランスから発信された思想、芸術などにも、多くの特筆すべきものがあります。建築家のル・コルビュジエ、映画のヌーベル・ヴァークなどは、世界に影響を与えたフランス文化の一例です。工芸の分野では、リモージュ焼き、バカラのクリスタルなどがあり、食の文化についてもご存じのとおりです。どこ

まず、非常に多様性に富んでいる点があげられます。両国とも、風景、気候、生活様式など、さまざまな点で多様性に富んでいます。例えば、フランスでは、ケルト文化豊かなブルターニュ、地中海のコート・ダジュール、アルプスのあるサヴォワ地方、カリブ海のグアドループなど、いろいろな景色を楽しむことができます。同様に、日本も、北海道から沖縄まで、いろいろな景色を楽しむことができるのではないのでしょうか。

また、歴史があるという点も共通しています。フランスは、どの時代も素晴らしい文化遺産を残しており、それらは全国に散在しています。古いものならヴェルサイユ宮殿、より近代的なものならエッフェル塔を見ることができると、学校の教科書で読んだり、見たりのゆかりの地が数多くあります。フランスを訪れると、実際に触れることができるわけではなく、実際に触れることができるわけ

に行っても、町の広場には素敵なカフェやテラスがあり、あまりお金をかけることなく、おいしいものを食べて、楽しいひとときを過ごすことができるでしょう。

皆さんの関心を引くものがどこかに必ずあり、特別なシーンをたくさん提供できることが、フランスの魅力だと考えています。大塚 私は、絵画が好きなのですが、これまで何度かフランスに行き、ルーブルやオルセーなどの著名な美術館を訪ねる機会がありました。一流の美術品を鑑賞できることも、フランスの魅力の一つだと思います。



東北地方を視察の折、マセ大使は気仙沼の復興商店街を訪れ、昼食をとった

は「シャンソン喫茶」に通ったりと、フランスの文化に親しんできました。フランスに行ったことがない日本人も、フランスを身近に感じています。これは、フランスのたくまざる情報戦略、文化戦略といえるかもしれません。

日本にも世界に誇る文化、芸術があります。例えば、最近、フランスでは俳句が人気だと伺いました。そうした日本が誇るコンテンツを世界に周知するための努力、情報発信が、まだまだ足りないと思っっているのですが、いかがでしょうか。

マセ 観光面において、日本は高いポテンシャルを持っていると思います。外国人旅行者数が世界第三〇位というのは、十分とはいえませんが、先ほど申しあげたように、多様性の魅力は、フランスだけでなく日本にも当てはまります。歴史があることはもちろん、建築・芸術などの文化遺産に富んでいる。また、食の文化、特に日本式のおもてなしの精神は素晴らしいと思います。

実は、フランス人の日本への関心も、とても高まっています。フランス国内には多くの和食のレストランがあります。文学だけでなく、漫画や映画などサブカルチャーへの関心も高いです。最近、フランス国内で行われた日本関連のイベントを見ていけば、いかに日

では、そうしたフランスの魅力を観光振興に結び付けるために、国や地方政府、民間は、どのような取り組みをしているのでしょうか。マセ まず、インフラの整備が重要です。例えば、フランスは、公共の交通手段が整備されているので、ある場所から別の場所への移動をスムーズに行えます。また、宿泊施設についても充実していると思います。

ただし、近代化、リノベーションは常に必要です。観光においても欧州各国間の競争があるので、負けないための努力は欠かせません。また、多様性を担保することも忘れてはいけません。フランスには、古城や古い邸宅を改装したシャトーホテルのようなものもあれば、近代的なホテルもありますし、最近では、スパを備えた高級リゾート施設もつくられています。

国・自治体レベルで、観光面での魅力の開発に力を入れていることも事実です。例えば、音楽祭や演劇祭などのイベントを、地方でもたくさん行っています。また、文化とスポーツを組み合わせる試みも展開しており、葡萄の収穫を行った後、自転車で周囲を散策するといったツアーも人気です。こうしたことに、フランス観光開発機構をはじめとする公的機関と民間が協力して取り組んでいます。フランス観光開発機構は観光の競争力を高めるこ

(注) <http://jp.franceguide.com/> 参照

国だということをアピールすべきです。宿泊施設にしても、食事にしても、お金をかけずに楽しめる場所もあるということは、知ってもらい必要があると思います。

あとは、複数の地域を回るコースの提案をするというのも効果的です。例えば、金沢から飛騨高山、白川郷などは、十分に回れるコースだと思います。その点、フランスのミシユランが刊行した日本版の「グリーンガイド」が、少しは貢献できるかもしれません。日本旅行を企画するフランス側の旅行会社へのプロモーションも大事です。

もう一つご提案するならば、道路案内標識などで、ローマ字表記を増やしていただきたいということです。都会ではほとんど困ることはありませんが、地方へ行くと日本語表記だけの所が多いと感じます。日本の田舎を楽しまたい欧米からの旅行者にとっては、ハンデとなっております。

大塚 今年四月に、WTTTC(世界旅行ツーリズム協議会)のグローバルサミットを日本に招致しましたが、被災地の現状を見てもらいたいと考え、東京と仙台の二都市で開催するというかたちをとりました。世界各国から一三〇〇人の参加があり、日本からの情報発信に努めた次第です。

大使からお話があったように、フランスで

ています。観光面での両国のさらなる連携も、ぜひ検討したいところです。

日仏観光交流の拡大に向けた取り組みについて、大使のお考えをお聞かせください。マセ 観光面での協力は、より大きな日仏間の協力の枠組みのなかで行われると認識しています。一つ一つの分野で協力がうまくいけば、全体として良い関係が築けると考えるからです。幸いなことに、現在、日仏間の協力は、全体的に非常にうまく回っていると思います。貿易もますます重要となっておりますし、毎年、双方による新しい分野での投資も増え

も日本のポップカルチャーについての関心が高く、毎年パリで開催されている欧州最大のポップカルチャーイベント「Japan Expo」には、若者を中心に約一九万人が集まると聞きました。こうした情報発信、イベントの開催を、もっと積極的に行っていききたいと思っています。

また、大使のご指摘のとおり、外国人が旅行しやすいような仕組みづくりを考えることは、非常に重要な課題であると認識しています。現在、東京駅を、一九一四年に建築された当時の外観を再現するべく、工事を行っており、この十月に完成する予定です。そのなかに、外国語対応のできる日本最大級の観光案内所を設置します。

東京から、横浜、鎌倉、日光といった観光名所へは、交通網が発達しています。特に、日本の鉄道は、安全かつ時間も正確で、その点、観光のためのインフラは整っているといえます。これをさらに利用しやすいものとするために、案内表示の多言語化などに取り組んでいきたいと考えています。

日仏観光交流の拡大に向けて

大塚 さて、最後に、今後の日仏の観光交流について、お伺いしたいと思います。

日本の経済界は、長年、日・EUの経済連帯しています。大学間・企業間の協定も増える一方で、昨年は落ち込んだものの、観光目的で両国を訪問する人が再び増えてきていることから、すべての関係が良い方向に向かっていると考えられます。

こうした流れを加速させるために、日仏外相が話し合って、戦略的パートナーシップを築くための五カ年間にわたるロードマップを示そうということが確認されました。そのなかにはEPAの締結も含まれます。私は、このロードマップのなかに観光を盛り込んでどうかと考えています。つまり、民間のセクターはもちろん、地方自治体、政府など、日仏間のあらゆるレベルで観光について議論すべきだということです。

例えば、観光キャンペーンを同時期に相互の国で行うことができれば、お互いの関心を今まで以上に高めることになると思います。それ以外にも、どのような相互受け入れが可能か、考えることも大切です。日仏間には多くの姉妹都市もありますので、これを強調するのも一つのアイデアです。

観光が、日仏関係のなかの「オマケ」ではなく、中心的な位置付けとなるように、私たちは努力すべきではないでしょうか。

大塚 同感です。観光は、国と国、国民と国民を近づけます。それは、世界平和の構築に



フランス観光開発機構2012年春季交通広告ビジュアル

携協定(EPA)の早期交渉入り・交渉妥結を強く求めてきました。私も、EPAの締結により、日本とEU間でビト、モノ、カネの往来が円滑になることが、日仏間の観光交流のさらなる拡大につながると期待しているところです。

先ほど大使からお話があったように、ファビウス外相は、野田総理表敬時に、今後の日仏間の重要課題として、「環境・エネルギー」「防衛協力」と共に「観光促進」に言及され

貢献するものだと考えています。その意味で、観光の持つ役割は、単なる経済効果にとどまらず、とても重要なものです。また、国と国がウイン・ウインの関係になれることも、観光の特長だと思っています。

マセ 一つ、エピソードを紹介したいと思えます。日仏の文化交流のため、ご自身が東京で所有する建物を提供してくれている日本人の方がいます。その方は、フランスとの関係を深めることは、自分にとってとても自然なことであったとおっしゃいました。フランスを初めて訪れた時、モン・サンミッシェルの近くで食事をしたことが、彼にとって人生最高の時間であったそうです。その時の感動を多くの人にわかってもらいたいという気持ちから、日仏交流への協力を行っているのだとおっしゃっていました。

大塚 貴重なお話を、ありがとうございます。観光だけでなく、あらゆる面で日仏両国の関係が深化することを祈っております。また、私の立場でできる努力を重ねていききたいと思えます。

マセ ありがとうございます。これからも、お互いに協力していきましょう。

(二〇一二年七月十三日 フランス大使館にて)

